

し女浦よとあり又曰三十二代

用明天皇丁未歲六月獲我る子弘海大徳
を尋精舎を管んと欲とあり鞍神多須
ふりりて弘海よ謂てる子の聲を讀
られたふ昔とあり又義長られを略之又曰
推古天皇吉貴元癸巳は時いふ年早かり獲我る子聖
徳太子と識て上よ奏官符を弘海
賜り靈鳥の瑞^奇瑞よ因て山を羽鳥と号
一云妙典の正神靈門徳益の澤剌なりとて
峯をい寂光寺と號し靈應寺の殿よ

弘海をて能除大師と賜号と云
寂光寺といふ山の名よのこ殘り心
後院の後をいふ

當山舊記曰人王三十代 欽明帝御宇
至^三 崇峻帝王子參拂理依天童之誥至^三
羽峯時片羽八尺靈鳥蜚來而導登千羽
峯拜^ス生身觀世音菩薩時讚曰善哉聖者
修勇猛行^ヲ一身善業普利于他當感見弥
陀大日所居土則化成靈鳥蜚揚月山及
湯殿山旦虚空誥曰我是羽黑神社也永